

自衛隊中央病院の かかり方

元自衛隊中央病院長

千先 康二 陸自80

はじめに

『偕行』編集の先輩から自衛隊中央病院へのかかり方を説明せよとご下命を賜りましたので、診療面のみならず、これまでの歩み、多様な機能等について併せてご説明申し上げます。自衛隊中央病院の公式見解ではなく、元病院長の個人的見解であることをお断りします。

自衛隊中央病院（以下、中央病院）は、陸・海・空3自衛隊の共同機関であり、自衛隊地区病院からの最終後送病院、29診療科500床を有する総合病院として、高度で質の高い医療を提供しています。中央病院が所在する世田谷区は東京一の人口90万人ですが区内では最大規模の病院となっています。

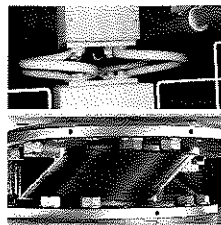
中央病院は、昭和31年三宿の地に開院以来67年を数えます。当時、日本武道館や京都タワーを手掛けた建築家山田守の建築で、東洋一と言われ渋谷からも見えたそうです。初期

の頃から職能補導所（新病院で職業能力開発センターに名称変更）、婦人自衛官養成所で後の高等看護学院（平成27年4年制大学化に伴い防衛医大へ移管）、診療放射線技師養成所を設置しています。

平成21年に新病院となりました。

筆者は新病院建替えにも関与しましたが、コンセプト作成から細部にわたる設計要望まで「あるべき姿」を追究しました。この経験が後の自衛隊札幌病院の建替えに活かされました。例えば、患者と勤務員の動線分離、大規模災害等における機能維持、NBC・大量傷者対応可能、緊急時病床倍増、広域患者空輸、救急対応、感染症対応、電子カルテ等です。

地上10階、地下3階。地下2階と地下1階の間に免震層が作られ、免震構造ゆえ健在性が高く、東日本大震災でも院内はほとんど揺れず手術を続行していました。



免震構造

上：鋼棒ダンパー
下：積層ゴムアイソレータ

屋上にはCH47チヌークなど大型ヘリコプターが降着できるヘリポートを有しており、都心では唯一のもので夜間発着も可能です。



屋上ヘリポート

ヘリポートへのエレベーターも完備しています。民間ドクターヘリ等の小型ヘリでは人工呼吸器をはじめ多くの医療機器を装着した患者の広域搬送はできません。北関東の病院



自衛隊中央病院 外観

から大動脈バルーンポンピング、人工呼吸器、複数のシリンジポンプを装着した重症心臓病患者を航空搬送したり、神奈川県から重症患者をCH47で受け入れました。陸上自衛隊ではMEDDEVACというCH47用の患者航空後送器材を開発しました。

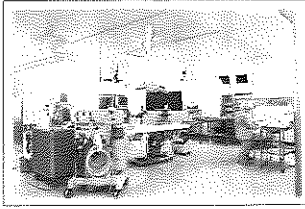
地下1階にはコジエネレーションシステムが設置され、多様な燃料で廃熱も回収する効率性を有し、ライフラインの途絶下でも一定期間病院機能を維持できるようになっています。緊急時は井戸水も使え、首都直下地震に際しても万全の態勢で機能発揮できるよう配慮しております。

病院正面玄関前と玄関内は広いトリージスペースを設け、大量傷者受入に対応できるようにしています。

救急にはNBC対応のための温水シャワーを有する除染室、検知室があり、初療室、診察室、観察ベッドに続き、救急用手術室やCT室に繋がっています。大量傷者に対応できる内外の温水シャワー8基を有する病院は他に知りません。集中治療室へ直行するエレベーターもあります。内部被ばくに対してはホールボデイカウンターによる体内放射線量

測定も実施でき、福島第1原発への派遣隊員の安心につながりました。

感染症対策として、エボラ出血熱など第1種感染症患者を収容できる陰圧室を有しています。廊下・前室を含め3段階の陰圧が可能です。第2種感染症患者を収容できる病室を有する感染症病棟（8階西）、結核病棟（9階西）の他、救急室・内科・小児科・皮膚科に陰圧の隔離室を有しています。感染症患者専用のエレベーターもあります。一方、熱傷患者対応のための陽圧室も備えています。



手術室



感染症病棟

外来や会議スペースには酸素や吸引配管、非常電源が壁に隠してあり、長椅子も背を倒せば簡易ベッドとなります。

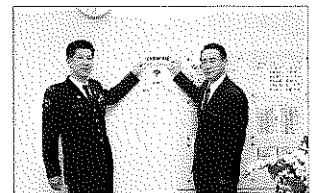
国の病院として、最高指揮官のための特別室もあり、防弾ガラス仕様の病室、副官室、会議室が一体となっています。VIPの検査・処置はスタッフ通路を使うので一般患者と接触しない配慮も可能です。

2 中央病院のソフト面

診療は、当初「自衛官とその家族」のための職域病院でしたが、平成5年保険医療機関に指定されオープン化し、自衛隊退職者をはじめ地域の皆様への医療の提供を行えるようになりました。

平成22年に救急告示し、平成28年東京都から二次救急医療機関の指定を受け、翌年東京都地域救急医療センター（東京ルール）として指定を受け、救急車受入台数が急増し令和元年には6千600台を超えています。

これは地域の中核病院として地域医療に貢献すると共に、自衛隊衛生として救急対処能力の向上を図るために必須のものと思えます。最新の医療の追求と共に救急対応を迅速



二次救急医療機関指定
(左：救急部長、右：筆者)

確実に行うためには、実地臨床の場で緊張感をもって診療することが任務の一つであり、その意味で「常在戦場」と言えます。

平成29年第1種感染症指定医療機関となりました。東京都で都立駒込病院、都立墨東病院、荏原病院に続く4番目の指定で、全国で56施設しかありません。アフリカ帰りのエボラ出血熱疑い患者を収容したこともあります（検査の結果陰性でした）。

平成12年官邸医療支援チームを発足させ、医官・看護官が24時間365日官邸医務室で急患対応すると共に、政府専用機にも同乗しつつ、内閣総理大臣の国内外の出張に同行しています。

災害や国際平和協力活動等に対しても、初動対処治療班、病院救護班、在外邦人輸送、国際緊急援助隊、患者後送チーム要員として約70名が待

機態勢をとっています。即応できるよう予防接種等も済ませた要員です。



即応態勢の維持

的に行っています。地域の医師会の先生方とは、勉強会・研究会、自衛隊中央病院での緊急蘇生コース、外傷コースへの参加を通じて密接な協力体制を整えています。特に隣接する国家公務員共済組合連合会の三宿病院とは良い関係を保っています。かつては全ての診療を中央病院の医官が担っていたこともありましたが、現在も科によって支援しています。症例増にも寄与し、密に連携しています。

自衛隊の特性を活かした災害医療も得意分野の一つです。首都直下地震など自然災害、サリン事件などCBRNEテロ、パンデミックなどに対応する「大量傷者受入訓練」も昭和45年以来1年に1回実施しております。筆者が病院長の折、隣の世田谷公園を使って警察・消防・自衛隊・保健所など多機関が共同し展示すると共に、ヘリコプターを近隣県の病院へ飛ばし、訓練を実施しました。PPE（个人防护具）の着脱訓練、N95マスクのフィットテストも全職員が実施しています。

セキユリテイについては自信をもっています。三宿駐屯地の中にあるため、守衛所を通ることになり、不特定多数の人が出入りする一般病院の欠点を補っています。米国の病院では銃を持ったセキユリテイガーがER（救急室）の入口に居るとは普通です。一方、守衛所がある患者が気後れするではないかと会計検査院から指摘されたこともあり、折しも駐屯地を厳しくせよと達せられた時期でもあり、苦慮したことを覚えています。最新防衛装備研究施設も有する駐屯地ゆえ仕方ない点もあります。我が国では病院が多くての入口を有することはテロ対策上でも問題となっています。ところが新型コロナウイルス対策で体温測定が徹底されると、入り口を指定し必ず通るようにしたので、期せずしてこの問題は解決されました。中央病院でも正面玄関前にプレハブの検温施設を設置しました。

に対処するという任務を担っています。ダイヤモンドプリンセス号からの感染患者収容では、CBRNE対応訓練の成果を遺憾なく発揮し、院内感染皆無で、「サイレント肺炎」を全国に情報発信し貢献しました。さらに大規模接種会場運営に長期間対応し、存在感を示しました。中央病院が担当した東京会場では通算166万回接種しました。特に副反応に関する情報や遅発性反応（モデルナアーム）に関する情報発信は、数十万人分のデータ解析によるものであり、医療関係者に寄与した影響は極めて大きいものでした。指揮統制が得意な自衛隊ゆえ円滑に実施できたと思います。これらは現業を有する中央病院のスタッフのみでは任務を完遂できず、全国の自衛隊衛生科隊員の支援により可能となったのです。

衛生専門職種の研鑽の場ともなっています。基幹型臨床研修病院として防衛医大卒の初任実務研修医をはじめ看護学生、診療放射線技師養成課程・臨床検査技師養成課程・救急救命士課程の学生達の臨床研修の場となっています。



大量傷者受入訓練

3 近年の活躍

ホームページの充実化も図っています。個人情報管理を厳格化すると同時に、情報発信の重要性も理解し、患者や医療関係者に対する情報提供に留意しています。

世田谷区、目黒区を中心に多くのクリニックと病診連携をとると共に、周辺の病院との病病連携を積極

全国的国立病院が独立行政法人化される中、国が命令できる唯一の国の病院として中央病院は様々な事態

6月8日にウクライナから2名の戦傷による下肢切断患者を受け入れ、リハビリ等の治療をしています。

4 中央病院へのかかり方

さて本題の中央病院へのかかり方ですが、外来・入院患者の約半数が一般の利用者で、地域の中核病院としての認知度も上がっています。初診の場合は予約が取れませんので、受付時間の平日午前8時半から11時半で受診して頂く必要があります。診療科によっては特定の曜日や日付の診療となりますので、ホームページや医事課受付(03-3411-0151内線6224)に問い合わせ下さい。

渋谷からバスが複数系統あり、停留所の「自衛隊中央病院入口」から世田谷公園を通ればすぐ正門です。東急田園都市線「池尻大橋駅」から徒歩10分です。患者専用(無料)駐車場も病院地下にあり、駐屯地正門で入門手続きが必要です。

受診に際しては保険証、診療情報提供書(紹介状)を持参して下さい。紹介状を持参せず受診した場合は、我が国では大病院に軽症患者が集中することを避けるため、初診で200床以上の病院は選定療養費を取るることになっています。病院で決められることになっており、都内の大学病院では1万円を超えるところもあり

ります。中央病院は2千200円で低額となっています。紹介状を持参した場合のほか、救急や入院を要する場合などでは免ぜられることもあります。初めて受診する方は入門時の手続きが必要ですが、その後は診療券を示せば入門できます(門から病院へ至る通路を外れることは控えて頂く必要もあります)。受付(診療券発行)申込書、診療情報の利用等に関する意思(確認・変更)書を記入していただきます。

必要により院内他科への紹介を要する場合がありますが、連携は良好です。精神科外来へも受診できますが、精神科入院は原則として現役自衛官に限定しています。

外来にお呼びする順番は、検査結果確認や担当医の都合によって前後することがあります。通院車の関係で自衛官の順番を若干繰り上げることはありますが、元自衛官だからと優遇措置はありません。ただ医事班長が元自衛官担当として尽力してくれることがあります。私も多くのOBの皆様から声をかけていただき励まされました。「現役時代にもっと予算をつけておくべきだった」と言われることも度々でした。

29診療科の詳細、入院手続き等は紙面の関係で割愛します。

診療終了後は自衛官の方と自衛官以外の方は受付票等の提出先が異なりますので御注意下さい。

5 中央病院の今後

米国ではVAホスピタル(Veterans Administration Hospital: 退役軍人病院)が退役軍人に対する医療を無料で実施しています。国家が退役軍人省を通して厚く処遇しているのです。

米国の高額な医療費に鑑み、入隊を決意する軍人も多いほどです。米国では退役しても一定の身分保障は続きます。自衛官が退官すると一般人になる我が国では考えられないことです。自衛隊の魅力に繋げるなら、少なくとも自衛隊病院はOBにも医療費無料化する等を検討してもいいのかもしれない(それには人員・設備・予算の大幅増が必要ですが)。

ところで自衛隊病院の医療に関わる経費は防衛予算である医療施行費等でまかなわれています。オープン化した自衛隊病院は、一般病院と同様レセプトを作成し診療報酬請求をしますが、その支払いが自衛隊病院に直接入ることはなく全て国庫に入

るだけです。審査支払機関で査定され返還を求められてもその財源が無いため、保険請求自体は抑制的となります。利用者の皆様に御迷惑をおかけすることはありません。一般診療のみならず健康管理や多様な任務を果たしている自衛隊病院ゆえ、防衛予算で医療を行うこと自体は適切

ですが、せめて一般患者の診療報酬は医療機関に支払われるようにすれば、高額医療も予算を気にせず実施できると思います。例えば心臓血管手術やペースメーカー埋め込み術・心臓カテーテル治療等は高額ですが、一般病院では収益増に繋がるのに、中央病院では病院長が気を揉む次第です。今後、質の高い医療を維持することは教育訓練上も重要であるととして予算増に繋がれば幸いです(防衛予算の中で唯一利潤を生む予算項目ゆえ、財務省担当のご理解も期待しております)。

引き続き、中央病院の地位・役割を明確に認識し、健全・精強な部隊・隊員の育成に寄与し、国際貢献や大規模災害に対応しつつ、高度で質の高い医療を提供し、皆様に信頼される病院として発展していくことを祈念しております。